キャラクター名
カデーレ・クルクス

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ウロボロス	ワークス	UGN支部長C	カヴァー	UGN支部長
オプショナル		年齢	28	性別	女性
覚醒	犠牲	衝動	憎悪	初期侵食率	39 %
出自	天涯孤独	経験	裏切られた	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	0			6
社会	1	0	0			1

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	4	
運転：			芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アサルトライフル	射撃	6r-1		9		
アサルトライフル	射撃	6r-1		9		
		0				
アサルトライフル２丁持ち	射撃	6r-2		18		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：傭兵	
ウェポンケース	
財布	
携帯電話（仕事用）	
ｽﾏﾎ？（私用）	
携帯電話（予備）	
いちご牛乳	
飴	
ホローポイント弾	
使用人	
ブラックカード	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
達人：マルチウェポン	P	N		
同僚(裏切り者)	P 友情	N 憎悪		
竹　輪	P 親近感	N 嫌気		
	P 好奇心	N 不信感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 40	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ブラックマーケット	3	常2	常時	至近	自身	自動		
効果：	常備化P+Lv*10							
マルチウェポン	1	5	メジャー	武器		対決		
効果：	ダイス+2個　攻撃力+5　同一判定武器2つ装備　攻撃力合計　判定の達成値-5ーLv							
無形の影	1	4	メジャー	武器		対決		
効果：	あらゆる判定を精神で判定できる							
コンセイトレイト：ウロボロス	2	2	メジャー			対決		
効果：	C値ーLv　下限値7							
零距離射撃	3	2	メジャー	至近		対決		
効果：	ダイス＋Lv個　同エンゲージ不可武器での攻撃可能化							
バレットワルツ	5	3	メジャー	武器		対決	リミット	
効果：	攻撃力+Lv*3							
原初の黒<クリスタライズ>	3	6常3	メジャー			対決	3回100%	
効果：	攻撃力+Lv*3　装甲無視							
写真記憶	★		メジャー	至近	自身	自動		
効果：	なんでも覚えてる。必要なら知覚。							
プロファイリング	★		メジャー	至近	自信	自動		
効果：	シャーロック・ホームズ。必要なら知識。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

よく裏切り者だとかそういったものにやたらと縁がある悲しみの一応支部長。
他者を中々信頼出来ないせいで意思疎通コミュニケーションが微妙に取れていない。本人は普通に取れてると思っています。

正義なんて物ははたしてあるのだろうか。
　誰かを護る為に武器を取った事には意味があったのだろうか。
　　明けない夜に朝日はいつか昇るだろうか。

◆絆１
オーヴァード、ジャーム関連事件により周りの人間の犠牲になることが多くそれが嫌でUGNに入った記録がある。
元は裏方の人間であった。
調査へと向かった先で敵エージェントと遭遇、調査チームは壊滅。
これ以上喪いたくないという気持ちを契機として覚醒している。
以降戦闘員として活動し始めそこそこ順調ではあったものの同期であった一人に裏切られ、そして他の同僚達とも、苺牛乳片手に談笑することも叶わなくなった。
それから疲れ果て、内なる心を閉ざし、希望を持てなくなってしまった彼女は未だ誰かを信頼することが出来ないのだった。

◆絆２
『仲間』　いつ裏切られ　いつ居なくなってしまうかも分からない。
心を許した場合もしもしそうなった時の悲しみは計り知れない。
故に簡単に心を許したり、信用をしたとしても信頼をすることは出来ない。
ただ、根本的には誰かを護りたかったからなったために信用してなかろうと味方の命を、市民の命を犠牲には出来るだけしたくない。
そして相手が敵であるならば、それがかつての同胞であろうとも、それがたとえ誰であってもその引き金を引くであろう。